

ニキビ治療薬アダパレンゲルの適用—有効性と留意点—

○渋谷 文則¹, 久米 晶子^{2,4}, 玉井 理大⁴, 山田 愛², 杉浦 郁子², 鶴岡 道子², 鈴木 一美², 吉野 恵子², 久米 敏文³, 山崎 浩史⁴(¹東京警察病院薬剤部, ²久米医院薬局, ³久米医院, ⁴昭和薬科大学)

【目的】アダパレン(レチノイド類似物質)ゲルは顔だけに塗布することが指示されている。そこで、顔およびそれ以外の部位に適用した際の有効性を比較検討した。【方法】尋常性座瘡と診断された男性4名(平均年齢20.3歳)および女性4名(平均年齢24.5歳)に、アダパレンゲルを一日1回(夜)洗顔・化粧水塗布後、顔に塗布し観察した。他に尋常性座瘡と診断された男性1名の同意を得て、背中半分にあダパレンゲルを一日1回(夜)塗布して、塗布部分と非塗布部分とを比較検討した。さらに女性3名(平均年齢53歳)の同意を得て手の甲にあダパレンゲルを一日1回(夜)塗布して観察した。被験者はビタミンB₂、B₆、Cを内服した。日中は日焼け止め(PF20)クリームを塗布した。夜は、アダパレンゲルを塗布した男性の乾燥にのみ乳液を塗布した。全ての女性に、乳液の塗布を指示した。【結果】全の被験者で、結果は良好であった。副作用は認められなかった。塗布3日目の男性が、皮膚が少しピリピリすると訴えたが、その翌朝には消失し、塗布を継続した。アレルギーを持つ男性患者も、過敏症状は認められなかった。ケミカルピーリングを行った1週間後からアダパレンゲルの塗布を始めた女性の肌には効果は認められなかった。【考察】従来は、尋常性座瘡が特にひどい症状には、トレチノインゲルの使用あるいはケミカルピーリングを行った。抗生剤の服用を行う場合もあった。本報告の被験者全ては、抗生剤を内服していないにもかかわらず効果が認められたことから、アダパレンゲルの塗布は、顔以外の部位の尋常性座瘡にも有効であることが強く示唆された。最も心配された皮膚の乾燥は、日焼け止めクリームを併用することにより発現しなかった。今後、さらに被験者を多くし、継続使用による経過を確認する。